

コラム

《腰折れ文》 十八、

渡邊澄子（会員）

まさに「怒髪天を衝く」で、胸がかきむしられる。玉城知事が県民の意思を携えて対話を求めに上京したほとんど間無しの十二月十四日、知事選で示された県民の意思を踏みにじり、憲法も民主主義も足蹴にし、「裏技」「奇策」を弄して土砂投入を強行したのだ。県民はあまりの暴挙に怒りと哀しみの涙を「諦めない」抗議の闘いの原動力に挑んでいた時、安倍首相はゴルフを楽しんでいたらしい。何てこと！ 権力で乗り切ったつもりの安倍夫妻の恥ずべき「モリ・カケ問題」は、自殺者まで出した内幕が語られ出した。幕引きしたつもりなら大間違い。

嬉しいニュースは米国で昨年十二月八日から始まったトランプ氏宛の「辺野古NO」請願署名運動に目標は十万筆だが十八日現在で十万三千筆を超えたという。署名期限は一月七日。どこまで増えるか。私も署名に

参加したい。米国在住の友人に協力

要請のメールした。本号発行日には筆数と米政府の対応を知ることが出来るはず。わくわくする。請願署名への協力呼びかけの土砂投入に対する街頭抗議デモが米国内七カ所で十二月十八日に行われたとの報道に感謝と嬉しさで目頭が熱くなった。反対広告や辺野古基金は欠かさぬが、もっと国民的運動に広げられないかと苛立つのは私ばかりではないと思う。「土砂投入は日米関係の『悲劇』と語るのは元米海兵隊政務外交部次長。彼は辺野古は基地実現できても普天間より滑走路が短いので、有事に動く主力の軍用機が離着陸できず、高台でもないのに津波にも弱い。国民のお金を使い、使えない施設を造るのは政治・行政の大きな失敗と言っている。政治・行政面ばかりではない。ジュゴンやウミガメその他さまざまな生き物が手つかずの美

しい海を殺すばかりか、海底はマヨネーズ状態で活断層もあると言つ。基地としての機能が不適格で決して「唯一」ではないのに、多額の税金投入だ。納税者の私は断固反対だ。税を自民党の大御所だけで決められては民主主義の圧殺ではないか。

税と言え、憲法違反となる専守防衛の空洞化に繋がる「サイバー・宇宙領域を強化」の「事実上の空母化明記」の「防衛大綱」が閣議決定され、与党が了承したという。国民には有無を言わず莫大な借金を背負わせているのに、防衛費への巨額の税投入は普通の国民には許すことのできない暴挙だ。今年度から五年間の防衛予算は二七兆円台という途方もない実感の及ばぬ額だが、この内閣ではさらに増やしかねない。『東京新聞』の「税を追う」は防衛費の実態を教えてくれる必見の記事だ。

切り抜き山を見つめながら今夜の食事にも事欠く貧窮層が買う大根一本にも消費税という税が強権によって奪われるのに、その税が安倍氏が目指す戦争のできる国への改憲協力になってしまふ自家撞着の制度って

と思つ。

外交文書公開によって、五七年に改憲の前段階として安保改定実現を密約。国民的運動となった「アンポ反対」運動には私も連日デモに参加した。あれほどの運動を岸氏は振り切って批准した。それを知った時、樺さんの近くに居た私は泣き崩れた。沖縄の悲劇はこの安保による。岸氏のできなかった改憲を孫の安倍氏が数の力で果たそうとしている。この年、岸氏が米国と密約した「秘密保護新法」は孫が特定秘密保護法として強行成立させている。改憲は絶対させないぞ。

言わねばならぬことはまだまだ多い。WEF発表の男女格差は世界一四九カ国中日本は一一〇位。G7では最下位。辺野古土砂投入反対が男五三割に対して女六五割。内閣不支持も女性の方が高い。女性の方が子や孫の将来まで実感的に見透せるのだらう。真の平等達成が私の悲願。触れずに済ませぬのは一五歳の張本智和君、一七歳の藤井聡太君、一八歳の早田・伊藤組の快拳に拍手。凄いの一語。